



学びと誇りが実感できるまち

～求められている力

コミュニケーション能力～

令和元年 6月号

庄原市教育委員会
教育長 牧原 明人

今朝咲きしくちなしの又白きこと (星野立子)

「ちょうちよがおるよ。」「黄色い花が咲いてるよ。」「おなか大きい。目も大きい。」「口が動いているけど何を食べているのかね。」

5月5日(こどもの日)に行われた第52回七塚原写生大会で見られた親子の会話の一コマです。市内外から200人を超える参加者があり、緑あふれる大自然の中で、新しい発見に喜び、昆虫や植物、牛に語りかけ、白い画用紙に絵筆を走らせていました。こうした体験は、子供たちがやがて大人になってもまたチャレンジしてみようという心に残る活動になります。

さて、今回は、激しく変動している社会を生き抜くために、子供たちに求められている力の一つである「コミュニケーション能力」についてです。

コミュニケーション能力については、様々な定義がありますが、辞書によると「人間が言語・文字・身振りなどによって、互いに意見や感情、思考を伝達し合うこと。意思の疎通、心の通い合いがあること」とあります。また、文部科学省の有識者会議では、「～(省略)～正解のない課題や経験をしたことのない問題について、対話をして情報を共有し、自ら深く考え、相互に考えを伝え、深め合いつつ、合意形成・課題解決する能力」と定義されています。

右の表は、平成30年度、企業を対象に調査した結果の一部を抜粋したものです。大卒等新卒者の採用選考をするとき重視した要素(複数回答有)の上位5つです。コミュニケーション能力は、16年連続1位となっています。

【選考にあたって特に重視した要素(%)】

1	コミュニケーション能力	(82.4)
2	主体性	(64.3)
3	チャレンジ精神	(48.9)
4	協調性	(47.0)
5	誠実性	(43.4)

(日本経済団体連合会調査)

こうしたコミュニケーション能力を培っていくには、家庭においては、平素から子供の気持ちや考えを聞くことを基本に、家族が子供の話し相手となる機会をつくっていくことが大事です。子供たちが疑問に思ったことや学校の様子などを話すときは、是非ともしっかりと向き合ってもらいたいです。

学校では、自らの考えを持ち、議論ができる授業展開をはじめ、より多くの意見や多様な考えの中で練り合い、意見をまとめ、合意形成や意思決定をする学習が求められています。「主体的・対話的で深い学び」となる取り組みなどを通して、コミュニケーション能力の育成を研究・実践しています。考えを深め、対話をしている子供たちの様子を参観してください。